

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第九主日礼拝のしおり

2022年8月7日

前奏

招きのことば：詩編 33 編 12-19 節

いかに幸いなことか 主を神とする国 主が嗣業として選ばれた民は。
主は天から見渡し 人の子らをひとりひとり御覧になり
御座を置かれた所から 地に住むすべての人に目を留められる。
人の心をすべて造られた主は 彼らの業をことごとく見分けられる。
王の勝利は兵の数によらず 勇士を救うのも力の強さではない。
馬は勝利をもたらすものとはならず 兵の数によって救われるのでもない。
見よ、主は御目を注がれる 主を畏れる人、主の慈しみを待ち望む人に。
彼らの魂を死から救い 飢えから救い、命を得させてくださる。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちはときどき思いもしないことに出くわします。息をのみ、驚きのあまり、考えることもとまってしまいます。そんなとき、あなたのことを思い起こさせてください。あなたがすべてのことをご存じで、すべてのことがあなたの御手のなかにあって、どんなことがあっても私たちを導き守ってくださるお方であることを信じさせてください。私たちはすべての出来事のために十分に備えることはできませんが、すべてをお任せすることができるあなたを待ち望むことができることを感謝をいたします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヘブライ人への手紙 11章 3, 8-16節

信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです。 |

信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです。信仰によって、不妊の女サラ自身も、年齢が盛りを過ぎていたのに子をもうける力を得ました。約束をなされた方は真実な方であると、信じていたからです。それで、死んだも同様の一人の人から空の星のように、また海辺の数えきれない砂のように、多くの子孫が生まれたのです。この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。このように言う人たちは、自分が故郷を探し求めていることを明らかに表しているのです。もし出て来た土地のことを思っていたのなら、戻るのに良い機会もあったかもしれません。ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいません。神は、彼らのために都を準備されていたからです。

福音書朗読：ルカによる福音書 12章 32-40節

小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心もあるのだ。」「腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい。主人が婚宴から帰って来て戸をたたくとき、すぐに開けようと待っている人のようにしていなさい。主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はっきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒がいつやって来るかを知っていたら、自分の家に押し入らせはしないだろう。あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

讚美歌 291番

- 1 主にまかせよ、汝(な)が身を、主はよろこび 助けまさん。
忍びて 春を待て、雪はとけて 花は咲かん。嵐にも 闇にも ただまかせよ、汝が身を。
- 2 主にまかせよ、汝(な)が身を、主はよろこび 助けまさん。
悩みは強くとも み恵みには 勝つを得じ。まことなる 主の手に ただまかせよ、汝が身を。
アーメン

説教：「小さな群れよ 恐れるな」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

先週は神様の前に富む者と言うお話でした。イエス様は畑の主人が豊作の年に倉をたてて収穫したものをに入れて、自分の魂に、これから長年分の蓄えができたから、すこし休んで飲み食いして楽しもう、と言ったら、「愚か者よ、あなたのいのちは今日取られる」、と言われました。この世にあって、誰よりも勤勉に働くこと、財産を無駄遣いしないことは大切なことですが、天地宇宙のすべてのものをおつくりになり、また私たちに必要なものを喜んでお与えくださる神様から知らず知らずのうちに心が離れて、目の前にある神様がお与えくださった富や財産で魂の安心が得られると思ってしまったことが、愚か者よ、と言われた理由でした。

神様は私たちがいつ、何を必要としているか、ご存じです。空の鳥は自分で種もまかず刈り入れもしないし、倉も持たないのに、神様は養ってくださる。野原の花も、神様はどんな美しいドレスよりもきれいに装ってくださいます。私たちの様々な思い煩いや心配は、神様から心が離れている証拠、いつまでもこの世のことに心が縛られています。まず心の向きを、いのちを

与えてくださった神様にしっかりと向けて神の国を求めて、つまり神様のご支配のもとにあることを受け止めて、心を騒がせず、何があっても安心して歩んでまいりましょう。

イエス様は今朝、小さな群れよ、おそれるな、あなたがたの父は喜んで神の国をくださる、と言われます。小さなものからなる小さな群れ、それは私たちです。悩みの多い、心の痛みや不安のたえない、小さな私たちの心、世の圧倒的な嵐のような力の前には、いとも簡単に消えてしまうともしびのような、弱々しい私たちだと言うことをイエス様はご存じで、よびかけておられます。小さな群れよ、と言われたら、はい、と答えたくになります。恐れるな、と言われます。そしてあなた方の父は喜んで神の国、つまり神様のご支配を与えてくださる。父なる神様のご自分の栄光をかけて、あなたを守り、あなたを支え、あなたを導いてくださる、と言われます。その神様に心に向けて、神様の前に富む者になりましょう。神様の御前に宝があれば、そこに私たちの心があるからです。

私たちが神様を父なる神様とすることができたのは、イエス様のおかげです。イエス様こそが神様を父よ、と呼ぶことができる独り子の神です。イエス様はご自分が神の御子としてお受けになるすべてのものを、私たちが受けることができるようにしてくださいました。そして、到底神の子どもとは呼べない、神様に自分から心に向けることがなく、いつも自分中心で心汚れた私たちを、イエス様はご自分の十字架の死によって、罪と悪魔と死の力から解放してくださいました。イエス様は実に私たちに仕えるため、私たちが神様の子どもにするために、罪を赦して、神の子としての新しいいのちをあたえてくださるために、私たちのところに来てくださったのです。

続くみ言葉には、イエス様が思いがけないときにくるので用意をしているように、と書かれています。招かれた婚宴から主人が真夜中に帰って来ても、いや、夜明けに帰って来ても、腰に帯を締めて、ともしびを消して眠ってしまわないで、しっかり起きて主人を待っている僕(しもべ)たちのように、主人が帰宅して戸を叩くなら、すぐにあけなさい、と言われました。

最初にイエス様がこられたとき、民は用意ができていませんでした。長い旧約聖書の時代、すなわち、天地が創造されてから、イエス様がお生まれになる2000年前までの長い間に、神様は聖書を通して救い主をお送りになると約束してこられました。アダムとエバは、人の子孫から救い主が現れる、と言われたので、自分の子どもからか、孫からか、と思って待ち望みしました。アブラハムもその子孫が神様の祝福にあずかると言われ、楽しみにしていました。偉大なダビデ王のあとは、ダビデのような救い主が現れる、と予告されました。人々は救い主をまっているはずでした。しかし、イエス様が来た時、人々は気が付きませんでした。ルカによる福音書1章には、クリスマスの夜、両親のマリヤとヨセフのための泊まる宿屋がベツレヘムにはなくて、イエス様は馬小屋で生まれ、飼い葉おけに寝かされました。思いがけない時に、イエス様が来られました。人々は用意ができていませんでした。その後もイエス様は方々を巡り歩いて、旧約聖書に預言されている恵みの日が今来た、わたしが神様に油注がれた救い主である、

と言われましたが、民はイエス様を会堂から追い出し、町から追い払いました。ついに十字架につけられたとき、弟子たちは逃げ去り、右と左の十字架に強盗がイエス様といっしょにはりつけにされていました。そのうちのひとりの強盗が、イエス様が罪のない神の子であったことを、死ぬ間際に息も絶え絶えに告白しました。そこにいた人たちの中で、このときこの人だけが、イエス様が救い主として来てくださったこと、私たちのために十字架について、いまや死んでくださろうとしていることを信じたのです。

イエス様は主人のように帰ってこられます。目を覚ましていた僕たちに迎え入れられます。私たちも目を覚まして、さまざまな思い煩いや、心配事に気を取られないで、イエス様を待ち望むのです。神様のほうに心を向けるのです。そうしたらイエス様は何をしてくださいますか。聖書にはどのように記されていますか。ルカによる福音書 12 章 37 節には、夜帰ってきた主人は、起きていた僕たちに迎え入れられたあと、何をなさったと記されていますか。主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に就かせ、そばに来て、給仕をしてくれる、と書かれています。待っていた僕たちに、何と主人が、食事の給仕をしてくださるといいます。

十字架の上でイエス様の方を向いて、自分の罪を悔い改めて、どうぞ私を憐れんでください、とお願いしたあの強盗に、イエス様は、まことにまことにあなたに告げます、あなたは今日わたしとともに天国にいます、と言ってくださいました。イエス様がこの強盗のために、ご自分のいのちを与えられたので、このときイエス様に向き直った強盗は、罪赦されて、永遠の御国にイエス様によって迎えられました。イエス様が御国にて、この方を迎え入れ、給仕をして、もてなし下さったのです。

神の御子であるイエス様が、思いがけないときに私たちの救い主としておいでくださったとき、多くに人々は用意ができていませんでした。今日もイエス様は私たちのところに来てくださいます。聖書のみ言葉の福音の説教を通して、今、イエス様があなたに語っておられます。このあとめたる聖餐式では、イエス様が給仕してくださって、ご自分の血と体を私たちにお与えくださいます。イエス様が私たちのところに来てくださるのです。心を引き締めて、ともしびを消して眠ってしまうことなく、イエス様に向いていることが、イエス様を待ち望む用意の姿です。

あなたがこの世に生を受けてこれまで歩んでこられたのは、偶然ではありません。あなたのいのち、あなたの生涯、あなたの将来は、神様の御手の中にあります。神様はイエス様を送って私たちを罪と死と悪魔の力と束縛から解放してくださるほど、私たちを大切に思っています。イエス様に罪赦されて、洗礼によって新しいいのちをいただき、神様をお父さんと呼んで、イエス様が来てくださることを、用意をして、腰に帯を締めて待つのです。

健康が心配ですか、神様に信頼しましょう。世にある命を強めて、み旨であれば元気になって、新しい心で神様と人々に力いっぱいお仕えになるでしょう。経済的な心配がありますか。神様

がいまおあずけくださっているものを賢く用いて、あなたのいのちが人々のために用いられる喜びを味わいます。難しい課題を前にとびきりの知恵を必要としていますか。神様に心を開いて天来の助けを信じつつ、目の前の問題を神の子としての視点でご覧になってください。人々がともに困難を乗り越えて成長するために、本当に考慮しなければならないことや、あなたに期待されている役割を知ることができるでしょう。

あらゆる心配や思い煩いを神様におまかせをして、神様に心を向けて、神の前に富む者となりましょう。神の国が与えられます。いつか、とても思いがけないときにイエス様が来てくださることを知らされていますから、いつ来られてもよいように心して用意をして、常にペースを崩さずに、イエス様を待ち望みましょう。イエス様は来てくださり、私たちを食事の席につかせて、そばに来て給仕をしてくださいます。なんとすばらしいことでしょうか。自分はそんな大きな光栄にあずかることはできないとお考えですか。み言葉をお聞きください。

小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。ルカによる福音書 12 章 32 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。**アーメン**だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。**アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあって我らは歩む。 ※

讃美歌 239 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 さまよう人々 たちかえりて 天(あめ)なる御国の 父を見よや
罪とが 悔やめる 心こそは 父より与うる たまものなれ
- 2 さまよう人々 たちかえりて 父なる御神の み前に行き
まことの悔いをば 言い表せ 世人は知らねど 知りたまえり
- 3 さまよう人々 たちかえりて 主イエスの御許(みもと)に とく ひれふせ
わが主は隣れみ み手をのべて こぼるる涙を 拭いたまわん
- 4 さまよう人々 たちかえりて 十字架の上なる イエスを見よや
血潮の滴る み手をひろげ「生命をうけよ」と 招きたもう **アーメン**

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ。**アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏